Special Feature

11 月 28 日（月）、六本木「Hard Rock Cafe Tokyo」で、スティングの最新アルバム『ニューヨーク 9 番街 57 丁目』購入者の中から抽選で選ばれた当選者のみが参加できるスティング本人によるパフォーマンスも予定されたイベントに潜入！ 【取材・文：加瀬正之】

グラミー賞 17 回受賞、アルバム総売上枚数約 1 億枚を誇る、世界を代表するアーティスト＝スティング。イベントの当選者は 115 名。当選の確率は 100 倍程だったそうで、この日会場に入れたのは幸運の持ち主ということになろう。スティングの来日は 2011 年 4 月以来 6 年振りで、プロモーションでの来日は実に 13 年振りとのこと。

超至近距離でスティングを拝めるとあって、イベントスタート前から会場は満員。19:00 ジャストにシックな出で立ちのスティングが姿を見せると会場は歓喜の嵐。ステージに上がると「Hello!」と第一声を上げた。65 歳とは思えないスタイリッシュな佇いで、オーラが凄い！ メディア用のフォト & ムービーセッションでは、当初予定されていなかったファンにも写真撮影を許可してくれる優しさも。ユニバーサルミュージック社長兼 CEO の藤倉尚氏より花束と共に贈呈されたスティングをイメージした江戸切子のグラスに日本語で「どうもありがとう！」とお礼を述べ、喜びの表情を見せるスティング。

そして、いよいよこのイベントのハイライト、スティングのアコースティックパフォーマンスだ。サポートとして盟友であり、バンドのギタリストでもあるドミニク・ミラーがステージに登場。アコースティック・ギターを手に取ると、袖をまくって気持ちを整えるスティング。1 曲目はスティングとドミニクのアコギ 2 本によるポリス時代の名曲「Message in a Bottle」！ギターの一音、スティングの一声から鳥肌もの。こんな至近距離でスティングの生歌＆生演奏を聴けるとは想像さえ出来なかったが、こんな瞬間ももう 2 度とないだろうと全身全霊で聴き入った。率直に感じたのは、声がヴィンテージの楽器のようで、正に芸術的。スーパースターの存在感を目の当たりにした瞬間だった。年齢など全く感じさせず、1 曲目からスティング節にノックアウト状態に。

2 曲目からはスティングの身体の一部とも言える愛器フェンダーのテレキャスター・ベースを手に取り、新作『ニューヨーク 9 番街 57 丁目』からシングルカットされた「I Can't Stop Thinking About You」を披露。シングルカットされただけあってキャッチーで、ロックなスティングを体感出来るナンバーとして既に名曲の域。3 曲目はスティングが “Sweet Song” と紹介した新作の 4 曲目に収録の「One Fine Day」。この曲ではドラム・マシーンも使用された。

Real STING! ～ スティングを生体感！

Photo by Kayoko Yamamoto

4 曲目はジャン・レノ主演映画「レオン」の主題歌として大ヒットした名曲で、ドミニクと共作した「Shape OF My Heart」。この曲も聴けるとは思わず、完全にノックアウト。予定では 4 曲のみのパフォーマンスだったが、小さなライヴハウスでプレイしていた下積み時代を思い出し、スティングも乗ってきたのだろうか、もう 1 曲やろうという事に。5 曲目は新作の 3 曲目に収録の「Down, Down, Down」。あっという間だったが、最高にプレミアムなひとときだった。

このイベントでは J-WAVE（81.3FM）「BEAT PLANET」内『BEHIND THE MELODY ～ FM KAMEDA』の公開収録も実施され、番組ナビゲーターのサッシャとコーナー担当ナビゲーターの亀田誠治によるトークセッションも行われた。以下、トークセッションでスティングが語ったことをまとめてみた。

アルバムのレコーディング期間は 3 ヶ月。短くて嬉しかったそうだ。現在はニューヨークに住んでおり、自ら “Englishman in New York!” と発する場面も。アルバムのタイトルはニューヨークの自宅から今回新作をレコーディングしたスタジオまでの 15 ブロック、歩いて 20 分位の距離を毎日歩いて往復していた際、必ず通っていたのが「9 番街 57 丁目」で、その通りの名を付けそうだ。交通が激しい「9 番街 57 丁目」を信号待ちしていた際、立ち止まって仕事のことや人生のことを考えたり、曲が浮かんだりした瞬間があったそうだ。ニューヨークはエキサイティングでパワフル、劇場やスタジオにも公園にも歩いて行けるのが好きで、自由に歩ける所がいいとのこと。

愛器フェンダーのテレキャスター・ベースは 1957 年製。ボディの傷（スクラッチ）も気に入っていて、他のベースは不要。親指、人差し指、中指の 3 本を使って弾いているそうだ。楽器にはスピリッツがあり、ヴァイオリンのストラディヴァリウスみたいにベースも弾き込むほど味が出ると語っていた。最近気に入っている音楽は娘＝エリオット・サムナーの音楽。最近アルバムをリリースしたそうで、とても気に入っているとのこと。エリオットの 50% は自分の DNA で、後の 50% はわからない（笑）とも語っていた。この模様は同番組 12 月 12 日（月）、13 日（火）13:25 ～ 13:35 でオンエア予定。

最後に、来年 6 月に来日公演を行うことがサプライズ発表され、観客のボルテージは最高潮に。新作からの曲と長い間やってこなかった曲もやる予定だそうだ。スティングがミュージシャンとして大切にしていることは「エンタテイナーであること」。そして、音楽で大切なのは「驚き」と語っていたのが印象的だった。アーティストは勿論、我々の人生にとっても大切なメッセージなのかもしれない。本当に夢のようなひとときだった。来年の来日公演が待ち遠しい！

新作は、ここ数作よりも、よりロックなアルバムだ。（スティング）
スティングがこんなにロックなのはポリスの『シンクロニシティ』以来ではないか。（マネージャー）

2016/7/18 付 Rolling Stone インタヴュー記事より

生まれ故郷（イングランド北東部ウォールズエンド、造船業で栄えた町）を舞台にしたブロードウェイ・ミュージカルのために書き下ろした前作『ザ・ラスト・シップ』(2013) で人生を振り返ったスティング。音楽人生第 2 章の幕開けといえる新作は、ファンが聴きたかったロック・アルバム！

◆収録曲【CD】
1. I Can't Stop Thinking About You
アイ・キャント・ストップ・シンキング・アバウト・ユー<シングル>
2. 50,000　50,000
3. Down, Down, Down　ダウン、ダウン、ダウン
4. One Fine Day　ワン・ファイン・デイ
5. Pretty Young Soldier　プリティ・ヤング・ソルジャー
6. Petrol Head　ペトロール・ヘッド
7. Heading South On The Great North Road
ヘディング・サウス・オン・ザ・グレート・ノース・ロード
8. If You Can't Love Me　イフ・ユー・キャント・ラヴ・ミー
9. Inshallah　インシャラ
10. The Empty Chair　ジ・エンプティ・チェア
11. I Can't Stop Thinking About You (LA Version) ＊
アイ・キャント・ストップ・シンキング・アバウト・ユー（LA ヴァージョン）
12. Inshallah (Berlin Sessions Version) ＊
インシャラ（ベルリン・セッションズ・ヴァージョン）
13. Next To You (Live At Rockwood Music Hall) ＊
ネクスト・トゥ・ユー（ライヴ・アット・ロックウッド・ミュージック・ホール）
＊ 11-13：海外デラックス・ヴァージョン・ボーナス・トラック
【DVD】（デラックスのみ）インタヴュー、パフォーマンス・ビデオ

★日本独自企画デラックス盤 SHM-CD+DVD
UICA-1068 ／￥3,400 ＋税
（＊ジャケットはデラックス盤仕様）
★通常盤 SHM-CD
UICA-1067 ／￥2,600 ＋税

ユニバーサルミュージックジャパン公式サイト
http://www.universal-music.co.jp/sting/

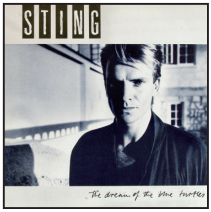
STING official website
http://www.sting.com/

Swinging STING! ～ スウィングするスティング！

ビートルズやキンクスで音楽に目覚め、セロニアス・モンク、チャールス・ミンガス、マイルス・デイヴィス、ジョン・コルトレーン等、ジャズの影響を受けて育ったスティング。イングランド北部教員養成大学在学中には夜毎ジャム・セッションに参加し、その後、“ニューカッスル・ビッグ・バンド”にベーシストとして加入。ポリス結成直前まで“ラスト・イグジット”というジャズ・フュージョン・バンドで活動していたほどジャズと縁が深いスティング。

1984 年には『ユア・アンダー・アレスト』のレコーディング中だった憧れのマイルス・デイヴィスのもとを、ベーシストとしてレコーディングに参加していたダリル・ジョーンズの紹介で訪れ、「ワン・フォーン・コール～ストリート・シーンズ」でミランダ警告を仏語で話す警官役でアルバムに参加。また、オリジナル・サウンドトラック盤『リービング・ラスベガス』では、スタンダード・ナンバー「エンジェル・アイズ」「マイ・ワン・アンド・オンリー・ラヴ」「ロンサム・オールド・タウン」の 3 曲を歌っている。スティングの曲の中で特にスウィングするスティングを感じる「イングリッシュマン・イン・ニューヨーク」は大好きな曲で、本誌（P26）の特集記事＜ Japaneseman In NY ＞はこの曲名を元にしている。

以下に特にジャズ色の強いスティングのアルバムを 3 枚紹介しているが、他にも、2001 年イタリア・トスカーナの別荘で行われたプライベートライヴを収録した『オール・ディス・タイム』には、ジャズ・ベーシストのクリスチャン・マクブライドをはじめ、多くのジャズ・ミュージシャンが参加しており、そのクリスチャン・マクブライドの 2011 年のアルバム『カンヴァセーション・ウィズ・クリスチャン』には、スティングとのデュオ「コンシダー・ミー・ゴーン」が収録されている。スティングならジャズの世界に邁進していたとしても、歌えるジャズ・ベーシストとして、エスペランサ・スポルディング等より遥か昔に脚光を浴びていたかもしれない。ポリスで名を馳せたスティングは、同じく伝説のスリーピース・バンド＝クリームで名を馳せたジャック・ブルースと同様、ジャズ・ベーシストからロック・スターに君臨した名ベースマンの 1 人だ。



ジャズ界の大御所達が参加したスティングのファースト・ソロ作品

ブルー・タートルの夢
（1985 年）UICY-20212

『ブルー・タートルの夢』参加メンバーとの欧州ツアー音源を収録

ブリング・オン・ザ・ナイト
（1986 年）UICY-94304

「イングリッシュマン・イン・ニューヨーク」収録のスティングの傑作

ナッシング・ライク・ザ・サン
（1987 年）UICY-20213

（9/30 発売）初アナログ・ボックス『The A&M Studio Collection』

【収録アルバム】
① ブルー・タートルの夢（1985）
② ナッシング・ライク・ザ・サン（1987）（2xLP）
③ ソウル・ケージ（1991）
④ テン・サマナーズ・テイルズ（1993）
⑤ マーキュリー・フォーリング（1996）
⑥ ブラン・ニュー・デイ（1999）（2xLP）［初 LP 化］
⑦ セイクレッド・ラヴ（2003）（2xLP）［初 LP 化］
⑧ ザ・ラスト・シップ（2013）

購入はこちらから⇒ ttp://store.universal-music.co.jp/product/537447/

Bassman STING! ～ ベースマン、スティング！

アップライトベース／ウッドベースについては、「見つめていたい」の PV でも確認出来るようにポリス時代から弾いている。ソロになってからもライヴ等で度々披露しており、1991 年に出演した『MTV アンプラグド』等でもその姿が確認出来る。

エレクトリックベースの奏法については、アメリカの女性名セッション・ベーシスト＝キャロル・ケイ（Carol Kaye）が手掛けた世界初のエレクトリックベース教則本『How To Play The Electric Bass』（1969 年発行／ページ右参照）から多くの事を学んだことで、「キャロルはベースの常識以上のことを教えてくれた」と彼女の HP で賛辞を贈っている。

The Official Carol Kaye Web Site ⇒ https://www.carolkaye.com/